

平成25年度予算案を発表

～総額1兆2,961億円、前年比5.0%増に

(事務局)

2月14日から始まる予算議会に向けて、平成25年度予算案が公表されましたね。どのような特徴がありますか。

(堀添)

平成25年度は、本市基本計画である「川崎再生フロンティアプラン」第3期実行計画の最終年度にあたります。そして、10月には川崎市長選挙も予定されています。その意味では、これまで3期12年間市長を務めてこられた阿部孝夫市政の取りまとめの予算と言えると思います。

その上でポイントを述べますと、まず第一に平成26年度予算で収支均衡を図ることを目標にした「第4次改革プラン」の枠組みを維持できたということです。当初の財政フレームでは、約59億円の収支不足が見込まれていましたが、計画を上回る歳出削減により、来年度の収支均衡が見えてきたと言えます。

第二に、とはいえ厳しい状況は続いていることも見る必要があります。市民税は1.4%の増、固定資産税も1.3%増、等により、市税全体では495億円の増収を見込んでいますが、義務的経費の割合は平成24年度よりもさらに0.6ポイント増の52.5%に上るなど、財政の硬直性が進行しています。

(事務局)

義務的経費が増える原因は为什么呢。

(堀添)

人件費は1.1%減らす予定ですが、扶助費は2.5%増え、公債費も3.6%増えるの見込まれています。職員給は阿部市政の12年間で256億円、約3割もの減額がされてきており、政令市の中でもトップクラスの削減率となっています。他方で、扶助費や公債費の増は、来年度固有の理由も含まれているものの、基本的には社会構造自体に原因があります。国と地方との関係を含め、基礎自治体としてのあり方が問われているのだと思います。

(事務局)

ありがとうございました。



- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブーンイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 2007年4月、同2期目当選。
- 2011年4月、同3期目挑戦するも惜敗。
- 民主党神奈川18総支部 常任幹事
- 民主党神奈川県政策委員
- 川崎地方自治研究センター客員研究員
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女の3人家族 下作延在住

川崎市の平成25年度予算案

	平成25年度	平成24年度	対前年比
一般会計	5,984億円	5,956億円	+0.5%
特別会計	4,914億円	4,392億円	+11.9%
企業会計	2,062億円	1,997億円	+3.2%
	1兆2,961億円	1兆2,346億円	+5.0%

※ 億円未満を切り捨てているため、合計欄は一致しません。

高津区における主な事業

川崎市民プラザ施設整備：	7, 252万円	(エレベーター改修、等)
わくわくプラザ施設整備：	8, 550万円	(子母口小、久末小、坂戸小、等)
民間保育所の整備：	2億4, 836万円	(子母口保育園跡地 130人)
鉄道事業者活用型保育所整備：	7, 747万円	(1か所 70人)
かわさき北部斎苑改修：	5億 853万円	
民間特別養護老人ホームの整備：	5億1, 528万円	(末長地区 104床)
自転車等駐車場整備：	5億4, 375万円	(溝口駅南口地下、等)
特別緑地保全地区等の用地取得：	1億3, 248万円	(久末籠場谷地区)
公園緑地の整備等：	3, 751万円	(下作延公園、等)
緑ヶ丘霊園の整備：	8, 557万円	(無縁合葬墓の整備、等)
公営住宅の整備：	5億7, 357万円	(末長住宅 104戸)
救急車両の整備：	3, 047万円	(高規格救急自動車1台)
校舎の建築：	31億 267万円	(子母口小・東橋中の合築)
校舎の改修等：	4億4, 769万円	(久末小、久本小、久地小)
上下水道関連施設等の整備：	13億1, 713万円	(排水管布設替、蟹ヶ谷ポンプ場)
高津区地域課題対応事業：	7, 049万円	
地域防災力の向上（避難所用備品配備、防災フェア開催、等）	426万円	
エコシティたかつ推進（環境教育、生きもの調査、等）	481万円	
高津区ふるさとアーカイブ（古写真をアーカイブ化しWeb公開）	418万円	
大山街道周辺整備活性化（マスタープランに基づく取り組み）	371万円	

連載コラム

川崎と高津の地名（No.7）

参考：上田恒三著「高津村風土記稿」
日本地名研究所編「川崎の町名」

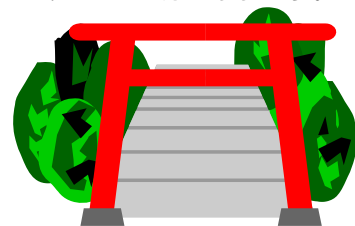
「北見方」の由来

北見方（きたみがた）は、かつては下倉耕地、上耕地、大道耕地、宮前耕地、山王下耕地、向河原の6つの字に分かれ、それぞれに氏神がまつられており、その総鎮守である白髭神社が北見方村の村社としてまつられていました。明治22年に近隣村々とともに高津村に編入され、高津村大字北見方となりました。

北見方の地名の由来については、はっきりしたところはわかっていません。「高津村風土記稿」では、疑わしい説ではあるが、との前置で、今川家の家臣で、その後現在の世田谷区喜多見あたりに居を構えた北見

氏に仕えた武士がこの地を開墾し、主人である北見氏の名にちなんで北見方と名づけられた、ということが紹介されています。北見方は、戦国時代初期、瀬田に本拠地のあった長崎氏が開墾した地のため、そこから「北見方」の地名となった、という説もあります。

この他にも、古代の県守（あがたもり）がいた御県（みあがた）にかかわる地名という説もあるようですが、やはり定かではないようです。



政治資金ご寄附のお願い

地元から日本改革を実現するために、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

「ほりぞえ健後援会」宛

郵便振替：高津郵便局 口座00270-1-24169
銀行振替：川崎信用金庫 高津支店 普通0796294